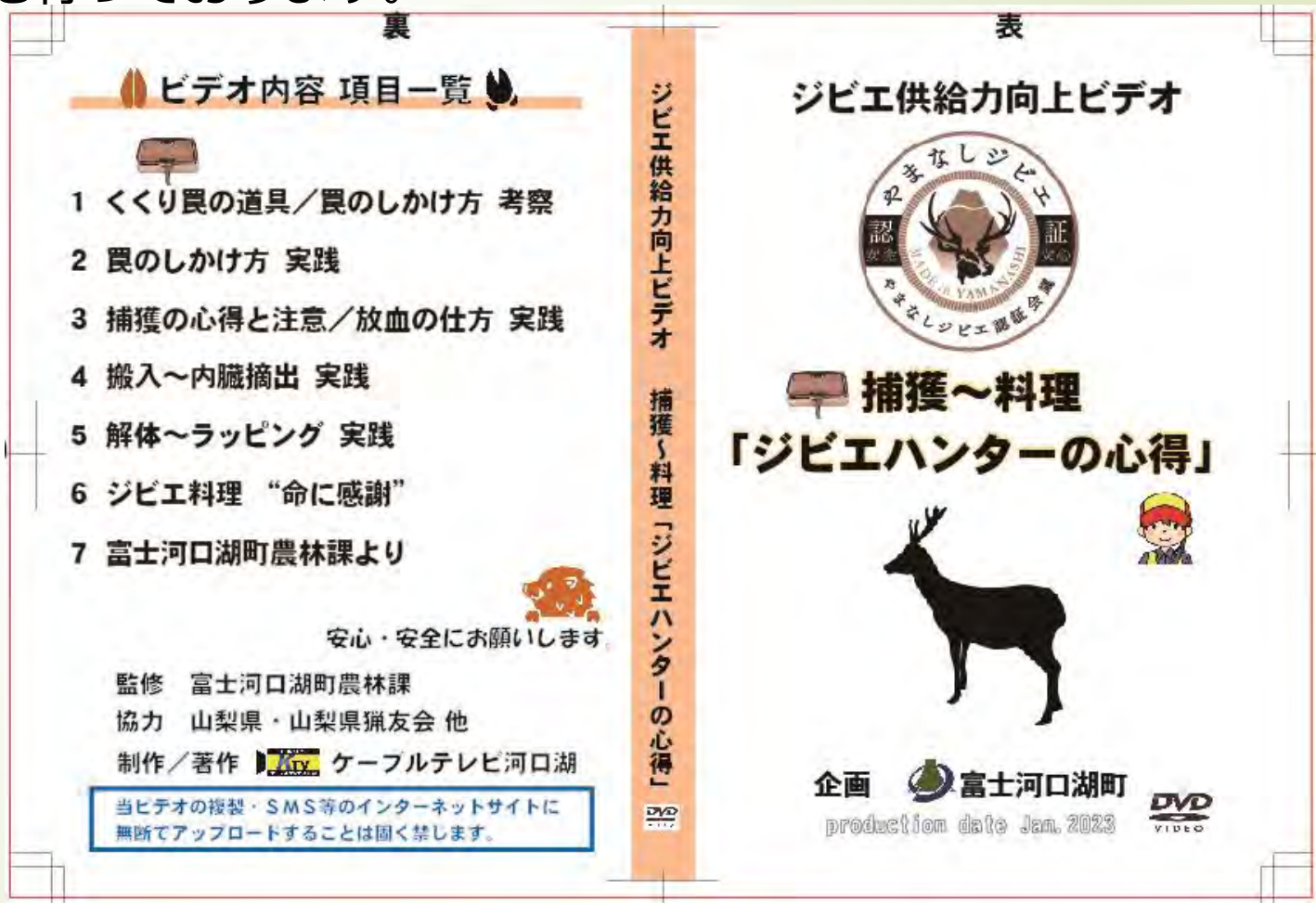
人材育成活動

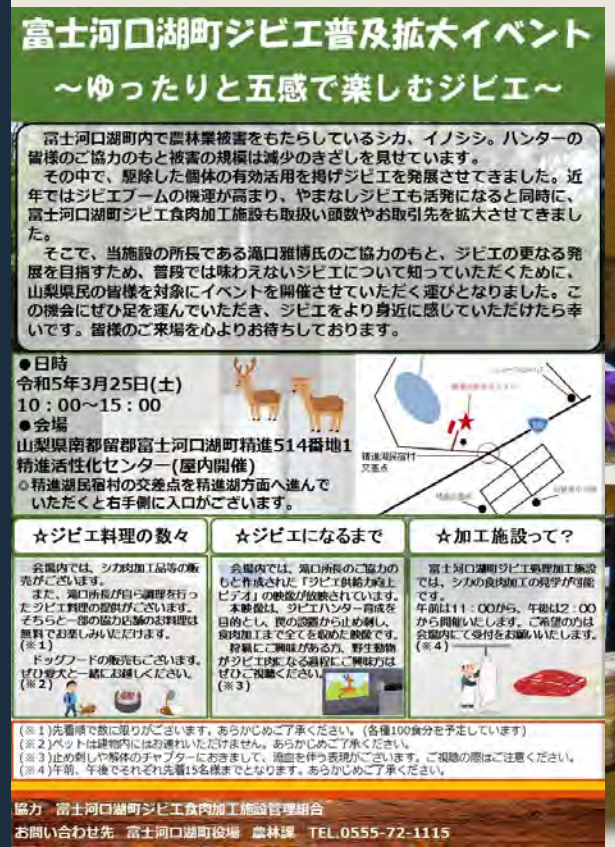
他の処理加工施設の職員や、新たに加工を始めたという未経験者などに対しても、町内外を問わず丁寧な指導、ジビエに関するDVD（ハンターの搬入を増やすため）の作成により、広く活動を知ってもらうような啓発活動も行っております。

DVDには罠の仕掛け方から料理まで収録しました。



普及活動

新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度からイベント等が開催できない状態が続いていたが、観光が戻りつつあり明るい兆しが見え始めていることから、ジビエ振興を図ることを目的として、管理組合を中心に、ジビエ料理や加工品試食会を開催し、普及活動にも力を入れている。



普及活動

令和4年4月に国のジビエ利活用コーディネーターに登録され、県内の他の処理加工施設や飲食店からの相談に応えるとともに、加工施設の視察にも積極的に対応している。

これらの中で、ハンター、加工施設の施設長、また、料理人としてジビエの発展における自らの思いを多くの方に伝えながら、自然の命を利用させていただくことに対する姿勢や心構えの重要さについても伝えている。

普及活動

　地元の学校給食にジビエの利用を協力していただいており、
ジビエ料理のメニューは毎回完食になるほど人気です。

活動の成果

捕獲実績と販売量の増加：

活動開始時の平成21年度に比べ、シカの捕獲頭数は令和4年度には500頭まで増加。
ジビエ肉の販売量も年々増加し、処理したシカ肉の高品質が広く認知されている。

地域への影響と需要拡大：

初期は地域にジビエが普及しておらず、猟友会の理解も薄かったが、
活動により搬入数が増加。
全国的なジビエブームや県のジビエ活用推進施策により、ジビエへの需要が拡大。

人材育成と啓発活動：

研修会やシンポジウムへの参加、講義やDVDを活用した啓発活動が実り、
ジビエに対する理解が広がっている。

富士河口湖町におけるシカ・イノシシの捕獲実績、うち加工施設に持ち込まれた頭数及び販売量

	取組開始時 平成21年度	平成27年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
シカ捕獲頭数 ／ うち加工施設処理頭数	110頭 ／ 34頭	253頭 ／ 101頭	317頭 ／ 81頭	436頭 ／ 141頭	466頭 ／ 141頭	483頭 ／ 143頭	500頭 ／ 214頭
イノシシ捕獲頭数 ／うち加工施設処理頭数	50頭 ／ 0頭	53頭 ／ 0頭	52頭 ／ 10頭	84頭 ／ 4頭	66頭 ／ 豚熱を考慮取扱無し	18頭 ／ 豚熱を考慮取扱無し	56頭 ／ 豚熱を考慮取扱無し
シカの販売量 全部位の合計	–	約863 kg	約937 kg	約1,258 kg	約1,409 kg	約1,565 kg	約1,733 kg
イノシシの販売量 全部位の合計	–	取扱無し	約51 kg	約6 kg	約6 kg ※　R1の在庫	豚熱を考慮取扱無し	豚熱を考慮取扱無し

農業生産額や作付面積など地域農産物生産の状況

・農業生産額：１４０千万円　耕地面積：431ha　農作物：野菜、水稲、果樹
・鳥獣による農作物被害の概況
　町内で農作物被害をもたらしているシカ、イノシシ、サルともに、最近の4ヶ年度では、取組開始時となる平成21年度から減少し、地域全体の合計被害金額でも減少傾向が続いている。
取組開始時及び直近４カ年度での被害金額、被害面積

	取組開始時 平成21年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
イノシシ	1,795千円 46.0a	1,135千円 30.4a	863千円 23.3a	802千円 21.0a	782千円 19.0a
シカ	300千円 800.0a	157千円 417.0a	166千円 442.7a	178千円 473.8a	176千円 469.0a
サル	624千円 20.0a	353千円 12.0a	151千円 5.4a	147千円 5.3a	116千円 3.0a
地域全体の 合計被害金額	2,748千円	1,645千円	1,180千円	1,127千円	1,074千円
地域全体の 合計被害面積	867.0a	459.4a	471.4a	500.1a	491.0a

今後の活動方向

- 引き続き施設長として高品質なジビエを提供。
- 県内全体のジビエの品質向上に務める。
- 地元猟友会との連携を図りながら、加工施設を拠点としたジビエの普及と後継者の育成を目指す。
- 退いた後も一猟師として、ジビエ振興に携わり、理念や技術の継承に積極的に取り組む。